

新年挨拶

新年明けましておめでとうございます。

旧年中、支部会員の皆様には、当支部活動に対し、多大なご支援、ご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、年末には青色LED開発による日本人3人のノーベル物理学賞受賞等で日本人を奮い立たせてくれる話題が有りましたが、一方では4月の消費税増税による景気の停滞感が各所で感じられます。また、中部地方では南木曾の土砂災害、御嶽山の噴火等、尊い命を奪う災害が発生し、自然の脅威を改めて感じさせられました。

本年は昨年末に行われた総選挙で与党が大勝し、アベノミクスも3年目に入り、その効果が期待されます。一方円安による資機材の高騰や人手不足等懸念材料も存在します。

この様な中、我々道路建設業界はインフラ整備を担う業界として、これらに対応し、発展していく必要があります。当支部としまして、昨年改正された品確法の基本理念である「将来にわたる公共工事の品質確保とその中長期的な担い手確保」等を念頭におき、発注者当局との意見交換の機会を捉え、道路建設業界の意見を主張していくと共に、その実現のため、継続的に活動して行かなければなりません。また本年は当協会設立70周年に当たり、その記念事業の1つとして「中期ビジョン2015の策定」を計画しております。

結びに皆様方のご健勝と、各社のご隆盛を祈念申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。



支部長

川端 清太

一般社団法人日本道路建設協会 中部支部

新年あけましておめでとうございます。

旧年中は中部支部会員の皆様方には協会運営に、格別のご理解とご協力を賜り誠に有難うございました。道路業界を取り巻く経済環境は依然厳しい状況にございますが、新しい年を迎えることが出来ましたこと、心より厚く御礼申し上げます。

まず12月14日の衆議院総選挙は与党の圧勝の結果となりました。連立与党主導による引き続きの景気対策に大きな期待をしたいと思っております。

また、11月には本美濃紙(岐阜県美濃市)がユネスコの無形文化遺産に正式登録されました。国際的に評価されたことは、中部地区にとどまらず日本にとっても喜ばしい事であります。

解散総選挙の結果を受け、今年はアベノミクスの真価が問われる年であります。

政府の統計によりますと、26年度は就業者100万人増加、過去15年で最高の賃上げ率等プラス効果がある反面、実質賃金が15か月マイナス、非正規雇用者の増加等マイナス面も顕在化しています。しかしながら、消費税増税は1年半見送られることが表明された事は、新年に向け、経済的閉塞感を払拭する材料になる事と期待します。

我々、建設業界においてもアベノミクス第3の矢である民間活力の力を引き出す成長戦略に牽引され、民間設備投資が増加する事に期待をかけるとともに、公共工事の継続的な発注についても期待をかけたいと思います。

末筆になりますが、協会会員皆様方のご健勝と、会員各社様のご隆盛を祈念し、新年の挨拶とさせていただきます。

幹事長

寺林 裕二

一般社団法人日本道路建設協会 中部支部

